



前衛技術同盟万歳

大企業粉砕
奴らはゲシュテル

前衛技術とは何か

なぜ我々は巨大テック企業を粉砕せねばならないのか

前衛芸術ならぬ我が前衛技術は、ハイデガーの『技術への問い』とシチュアシオニストを参照点に、リベラルな技術倫理の中立性神話を暴いて技術の権力性を露呈させ、人々を支配し疎外するゲシュテル／スペクタクルだと現代の情報資本主義に対して根源的な批判を展開するが、危機に際して原典のように放下するのでは余りにも政治的に無力なので、ハイデガー左派として被投性よりも現存在の投企を強調し、ゲシュテルの挑発に応答せず寧ろ積極的に転用と総破壊、単なるラッダイトでは無いそれ以上の存在論的革命を遂行する事によって、真理の開示を可能にし本来性を回復したポイエーシスな技術の制作＝自由な生の“状況の構築”を実践する。

ハイデガー ドイツの存在論の哲学者。主著は他に『存在と時間』など
シチュアシオニスト 前衛芸術家・革命集団。五月革命に影響を与える
技術倫理 技術はこうあるべきという規範。体制的なコンプライアンス
中立性神話 技術は道具で使い方次第で良くも悪くもなるという幻想
ゲシュテル 総駆り立て体制。例えばダムは川の水を資源として配置
スペクタクル 広告やメディアなど生を媒体する見せかけのイメージ
放下 支配されずに存在へ身を委ねることで技術の本質に触れる態度
被投性 この世界に自由に意図せずとも「投げ出されて」いる事
現存在 いま、ここにいる存在。かいつまんで言えば私たち人間
投企 現存在を未来の可能性へと向かって積極的に投げかける事
転用 既存の作品を改変して意味を革命的なものへ捻じ曲げる戦術
総破壊 バクーニン主義の用語。支配が成立する条件の根底的破壊
ラッダイト 産業革命期イギリスの手工業者の機械打ち壊し運動
存在論的革命 政治や社会それ以前に、存在の開け方を変える革命
開示 存在者（このビラなど実際に有る物）が隠れから立ち現れる事
本来性 世間一般に埋没せず「死への先駆」を覚悟し投企する生き方
ポイエーシス 技術の制作を通じて現存在が存在の開示に関与する事
状況の構築 瞬間を目的へ組織化して疎外されない直接的な生の営み

前衛技術同盟